

2019和歌山大学教育学部附属小学校研究発表会

図画工作科学習指導案

# ワイヤーの森

～未来から種が  
とんできた!?!～



日時 令和元年11月3日(日) 1限 9:10~9:55  
場所 図工室  
学級 5年C組(男子14名 女子14名 全28名)  
指導者 西原 有香莉

<p>図画工作科 5年C組</p>	<p>ワイヤーの森 ～未来から種がとんできた！？～</p>	<p>西原 有香莉</p>
-----------------------	-----------------------------------	---------------

日時 令和元年11月3日(日) 1限 9:10~9:55

場所 図工室

学級 5年C組(男子14名 女子14名 全28名)

## 1. 本実践の主張点

素材と空間の両方に働きかける造形活動を行う事で、自他の活動の意味や価値へのより深い理解を促すと共に、“表したいこと”への思いを強め、イメージの創造を実現する力を育むことができる

## 2. 5Cの子どもたち

本学級の子どもたちは、高学年という発達段階でありながら、感覚の世界を楽しめるよさを未だ持ち続けている。1学期に、混色や色が感覚へもたらす効果を学ぶことを目的に、絵の具で色づくりをする活動を設定した。その際、色のもつイメージを感性と知性の両面から認識することをねらい、作り出した色を名付け、自身のもつ色のイメージを言語化することも活動に入れることにした。感性を通して捉えた色のイメージを言語化することは、5年生の子どもたちにとって難しいと予想していた。しかし、本学級の子どもたちは、自分の経験と結びつけ、思い出の中にある場面を色の名前に投影し、「お姉ちゃんの誕生日色」や「夏色」といったように、発想豊かに名付けていく姿が見られたのである。

また、形の感覚に対するアプローチとして、身の回りにあるもの(はさみや鉛筆、コンパス、家から持ってきたフィギュアや洗濯ばさみなど)をアルミホイルで包んだ“かたち”を組み合わせて抽象的な形をつくるという活動も行った。できた形を積み木のように組み合わせ、新たな形をつくっていく。つくるのは、何にも見立てられない抽象的なオブジェのようなものである。ある子どもの活動に着目してみると、「形を組み合わせる→眺めてみる→もう少し変えてみる→微笑む」という姿が見られた(図1)。この微笑みは、自分なりの感性に基づき“いいな”と感じられる形を完成させることができたことによる満足感が得られた姿であったと考えている。自分なりの“いいな”と思う形に向けて、パーツを重ねたりはずしたりするなど、組み合わせ方を試行錯誤し続ける姿も見られ、まさに感覚の世界を楽しんでいた姿であったと感じている。



図1：形を組み合わせる

これらの姿から、本学級の子どもたちは感性の世界を楽しめるよさがあり、さらに形や色に対する感覚の豊かさがあることを実感している。5Cの子どもたちがもつ感性の豊かさを生かすことや、新たな表現や活動を生み出していくことの喜びを感じることができる活動を設定することで、探究的な学びが実現できると考え、本題材を設定した。

### 3. 何ができるようになるのか

探究力	省察性
素材や場・空間に対して感性的に働きかけることや、素材に関する造形的な知識・技能を活かして制作することを通して、自他の表現や活動に意味や価値を見出すと共に自分なりの表現を生み出していくことの喜びを感じながら活動する力	自他の働きかけによる、素材や場・空間の多様な変化を認識することから、更なる表現の可能性を感じ、自己の思いを表現に反映させていく力

### 4. 何を学ぶのか

#### ①題材の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
アルミ線の特徴を理解すると共に、その造形のよさを生かす工夫して立体構成する	場、空間の様子を考えあわせながら、アルミ線の特徴を生かした立体構成を多様に試みる	素材の魅力を感じ、自分らしい表現や活動をつくり出すことの喜びを味わうと共に、その実現に向かおうとする

#### ②題材について

ワイヤーは、子どもの働きかけがそのままの形で保持され、形の変更も容易であることから、扱いやすい素材である。そのような特性から、「線材からの立体構成」のような造形活動が行われてきたが、一方で、近年図画工作科で扱われることが、少なくなってきたような印象がある。その理由の一つは、立体としての表現をすることが比較的難しいということが考えられる。しかし、立体素材としての扱いにくさは、一方では「線材から立体を表現する」ことの本質にかかわる難しさであり、その難しさは学ぶべき価値でもあり、魅力的な部分でもある。

本題材では、アルミ線を用い、ぐにゃぐにゃと自在に姿を変える柔らかな線と張力をもって張った時にみせる緊張感のある直線の2つの特性（素材の魅力）を子どもたちに示したい。そして、素材体験を積み重ねていく中で、針金にかかわる造形の技法を発見すると共に、多様に变化する針金を目の当たりにすることから、表現の可能性を探り始めることを予想している。

また、ワイヤーの森というテーマ設定は、それまで獲得してきた素材体験における学びの活用を促し、針金の特性を活かした有機的な柔らかな表現を導き出すと考える。更に、植物として意味づけられることで、アルミ線のつくり出す曲線のよさや光りの美しさを改めて味わうことにもなるだろう。素材に関する新たな気づきが、イメージを膨らませ、“表したいこと”への思いを更に深めていくことを予想している。そして、自分や他者の働きかけにより教室の風景が変わっていくことから、場や空間を変化させることのおもしろさを感じることや自らが創造者であることの自覚につながり、創造への意欲が高まることから、探究的な学びが実現できると考える。

### ③学年間・教科間のつながり

1学期から、「形や色」を造形的な視点で捉え自分なりの意味や価値を見出すことを目指し、表現活動を行ってきた。特に「形」に関して、見る方向によって自身にもたらされるイメージが異なることを、鑑賞活動により体験している。本時では、そのような造形的な視点を働かせることで、自他の表現のよさや多様性を感じながら「表したいこと」の実現に向けた表現の探究が行われることを期待している。また、1学期にアルミホイルによる造形活動も行っていることから、素材の特性においてアルミ線との共通性を見出し、造形の技法や造形操作の方法における模索を促すと考える。

また、自分と違った表現があることやそのよさを味わうこと、そしてその気づきが自身の表現の広がりへ還元していくことをねらい、互いの表現を見合う場を意図的に設定する。その際、国語科「すいせんしよう」と関連させ、表現のよさを言葉で記録していくことで、感性と知性の両面から、表現の価値や意味の実感を促すことにつなげていきたい。

## 5. どのように学ぶのか

### ①働かせたい思考スキル

くらべる    つなげる    まとめる    広げる    予想する    見方を変える

### ②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p><b>単元計画（全7時間） 本時5/7</b></p> <p><b>第1次 ワイヤーで何ができるかな？</b> ～基本の技に挑戦しよう～</p> <p><u>①ワイヤー職人になろう！（基本の技を使ってみよう）</u> どんな表現ができるかな？</p> <p><u>②ワイヤー職人になろう！（新しい技を試してみよう！）</u> 基本の技の組み合わせで、更にどんなことができるかな？</p> <p><b>第2次 ワイヤーの森～未来から種がとんできた！？～</b></p> <p><u>①、②、③ワイヤーの森をつくろう！（本時）</u> 見たことのない植物を生やし、教室をワイヤーの森に変身させよう。</p> <p><u>③不思議な植物図鑑をつくろう</u> つくった植物の説明書をつくろう。</p> <p><u>④ワイヤーの森の写真家になろう</u> お気に入りの場所やいいなと思うところを探して写真を撮ろう。また、その良さを伝えあおう。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 1142 938 1534" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">探究力を育む</td> <td data-bbox="938 1142 1453 1534"> <p>単元における授業づくりのしかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作りかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・ 必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="831 1534 938 1897" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">省察性を育む</td> <td data-bbox="938 1534 1453 1897"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul> </td> </tr> </table>	探究力を育む	<p>単元における授業づくりのしかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作りかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・ 必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul>
探究力を育む	<p>単元における授業づくりのしかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作りかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・ 必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul>				
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul>				

## 6. 何が身に付いたか（評価規準）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>• アルミ線のよさを生かし，表現技法を効果的に活用することで立体構成をしている。</li> </ul> <p>【創造的な技能】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 素材にかかわる中でイメージを広げ，素材や場の特徴を生かした様々な表し方を思いついている。</li> </ul> <p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 素材のよさや場・空間の特徴を感じ，テーマを生かした表したいことを見つけている。</li> </ul> <p>【発想・構想の能力】</p> <p>【鑑賞】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アルミ線の特徴やその造形が生み出すよさを感じることで，また空間が変化していくことのおもしろさを味わいながら，立体造形を行っている。</li> </ul> <p>【造形的な関心・意欲・態度】</p> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 線材を使って立体表現を行うことに興味を持ち，素材や場を生かした表現に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>【造形的な関心・意欲・態度】</p>
<p>*単元を通して評価</p>		

\*現行の評価基準を【 】内にて示す。

## 7. 本時までの学習の流れ

### ワイヤーの森 ～未来から種がとんできた！？～

#### (1) ワイヤー職人になろう！～基本の技を使ってみよう！～

素材と子どもたちの出会いの場面。ワイヤーを見せた瞬間、「きれい！」「早く触りたい！」という反応が返ってきた。銀色に光るワイヤーの美しさや、自在に造形できそうであることの素材の特性を感じ取り、活動への意欲が早くもでていたようであった。

さらに、ワイヤーは“アルミ製”であることを伝え、子どもたちの素材に対する距離がぐっと近づいていたように感じた。一学期にアルミホイルを使った活動を行っていたことから、「素材の特質を知っている」という自信があったのではないかと考えている。アルミホイルの特質に関する気付きは、図2のようであった。素材とのかかわりの中で体験的にアルミの柔らかさを捉え、引っ張るとすぐにまっすぐになり、何度も形をつくり変え可能な試行錯誤できる素材であることなどへの気付きである。

そのような経験をした上での第1時。アルミ線は、直径1.6mmのものを約2mずつ配布し、基本の技法を提示した。提示したのは、「まげる」「ねじる」「まきつける」「つなぐ」「とめる」の5つである(図3)。“基本の技法”は、技法の組み合わせや工夫次第で新たな表現を生み出していくことができそうなものに絞っている。その基本となる5つの表現技法の習得や造形技能の向上、アルミ線の特質を体験的に獲得していくこと、造形表現の更なる広がりをもたらした時間である。

活動の開始直後、基本の技を忠実に試す姿が見られた。図4は、鉛筆にアルミ線をまいて「まきつける」を試している姿である。アルミ線をすき間なく巻き付けることでバネのようなものをつくり上げ、いくつもつくっていたことから、バネの形状をしたアルミ線の美しさを感じ、よさを見出している様子が確認できた。

基本の技の中で「つなぐ」の技法が難しいようで、うまく鎖のようにつないでいくことができず苦労している姿が多く見られた。その中で、つないでいく輪を図3のようにねじって閉じずに、「つなぐ」を成功させている子どもがいた(図5)。これは、アルミ線の「形状を保持する」という特質をうまく生かした技法であると考えられる。

#### アルミホイル

★アルミは自由自在。アルミはとてもやわらかいからいろんな形に変身させることができる。

★まく時、軽くひっぱると、きれいになって、きれいにまけることが、この授業で分かりました。

図2：アルミホイルの特質に関する気付き



図3：基本の技



図4：「まきつける」を試す姿



図5：子どもの生み出した「つなぐ」

また、「もっと細かくワイヤーをつないでいきたい」という思いから、図3や図5のような「つなぐ」に限界を感じている子どもがいた。そのような子どもに、S字フックのようにつなげていく方法を伝えた。その子どもが作った作品は図6のようなものである。初めはつなぎ目部分をきつく締めていたことから、アルミ線同士が固定され連なっていた。しかし、つくり続けていく中で、S字を少し大きく曲げて余裕をもたせることであそびが出ることに気付き、鎖の様にやわらかにアルミ線が連なる表現を成功させ、新たな「つなぐ」の技法に磨きをかけていた。



図6：S字をつくることによる「つなぐ」

上記のように「つなぐ」に自分なりの工夫や気付きを加え変化させていったように、時間の経過とともに、基本の技法をそのまま再現するだけでなく、技法を組み合わせたり、新たな技法を生み出したりする姿が増え、表現の広がりがみられた。

## (2) ワイヤー職人になろう！～新しい技をためしてみよう～

前時では、自分のしてみたい基本の技法を試す姿や自分なりに工夫を加えて表現活動していく姿は見られたが、全体的に試行錯誤が個人の活動で止まっている子どもが多いような印象を受けた。自分なりの表現活動の追究はできつつあったが、表現活動の広がりはあまり見られなかった。そういった現状から、表現活動の広がりに向けて協働することも視野に入るように、第1時の後半にでてきていたたくさんの技法の中から、いくつかピックアップして提示した。

まず提示したのは、第1時で苦戦していた色々な「つなぐ」技法である。色々な大きさの輪をつないだもの(図7)、図5にも挙げた輪を閉じるだけでつないだもの(図8)、さらに、「つなぐ」と「ねじる」の合わせ技でつないだもの(図9)である。

また、自分の表したいことを持ち始め、それを実現するために、基本の技を活用し始めている子どももいた。これらの作品は、表したいことに対する技法の有用性を感じることができる考え、提示した。一つ目は、「ねじる」をつかって「ねこ」を表現していたものである(図10)。図10においては、アルミ線をうまく曲げることで具体的な形のシルエットをつくることのできるから、「かたどる」という新たな技法として表現を位置づけ紹介した。また、同じ「かたどる」をしている表現として図10も提示した。図11に関しては、「かたどる」によって星をつくりだすと共に、「ねじる」「つなぐ」を活用しクリスマスツリーに飾るオーナメントの様な、つるすとゆらゆらと動く表現を生み出していた。



図7：様々な大きさの輪による「つなぐ」

図8：輪をとじたことによる「つなぐ」



図9：「ねじる」との合わせ技による「つなぐ」



図10：「ねじる」「かたどる」による表現

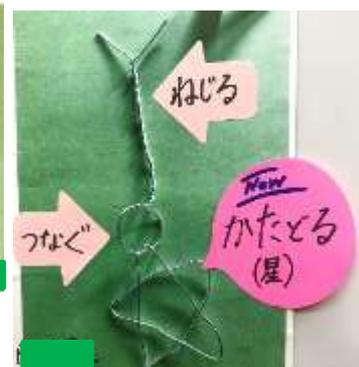


図11：「ねじる」「つなぐ」「かたどる」による表現

最後に、図12のような表現を紹介した。図12をつくり出した子どもは、アルミ線を十字に「とめる」ことで、立体の表現を生み出していたのである。この表現を知ることから、アルミ線を線材として扱い平面表現に留まることなく、立体表現もできる素材として、アルミ線のさらなる造形素材としての可能性をさぐることに向かってほしいと考えたからである。



図12：「とめる」ことによる表現

上記のような表現を紹介した後、第2時では、新しい技を試したりつくり出したりすることをめあてとし、活動に取り組んだ。また、第1時を終えた時点で、もっと細かな表現をしたいと考えている子どもが多かったことから、第1時で用意していたアルミ線に加え、直径0.9mmのアルミ線も与えた。

活動開始直後、まず見られたのは図13のような様子である。図13の右にいるのは図8の表現を生み出した子どもで、左にいるのは図11の表現を生み出した子どもである。これは、左の子どもが「つなぐ」の方法を聞いている場面である。左の子どもは右の子どもから実際に「つなぐ」をつくっているところを見せてもらい、納得した表情を見せ、自分の活動に入ってしまった。



図13：「とめる」の技法を共有する姿

その後、図13中の左の子どもがつくり出した作品は図14である。図11と比べると、同じ大きさの輪が連なり「つなぐ」の部分が伸ばされゆらゆらと動く部分が長くなっていることと、星形は三角形を組み合わせることでより複雑な形へと変化していることが分かる。星の部分は、三角形を細いアルミ線でくくりつけることで固定されていることも確認できる(図15)。図11の作品より表現が複雑化していることから、図14を完成させるまでに多様な技法を習得し表現に活用したことがわかる。そして、表現には、図13の場面で獲得したと思われる技法が活用されていることから、協働的な活動によって表現の広がりがあったといえる。さらに、第1時での表現と大きな変化はないものの、細かな部分で表現の発展が見られたことから、自分なりの表現に価値を見出していたことや、自分なりの表現に対する思いを深めながら造形活動していたことが感じ取れる。

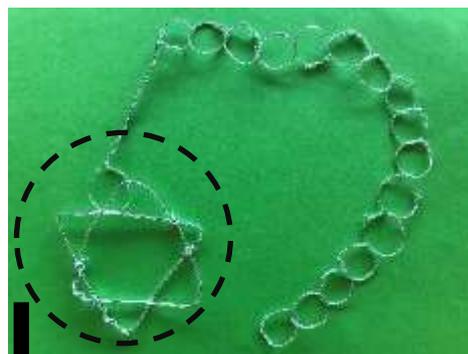


図14：第2時で完成させた表現



図15：細いワイヤーをくくりつけることで三角形を固定

また、図16のような「花束」の表現を完成させた子どもがいた。その表現を見た子どもが「すごい！」と声をあげ、その声を聞いた子どもが周りに集まり出し、図16の表現に顔を近づけてよく見たり、制作した子どもに方法を聞いたりし、多くの子どもが同じ表現を試し始める姿が見られた(図17)。こういった姿が広がり始め、友達と表現技法について対話する姿が増えていったことから、協働的な活動により表現の幅をさらに広げることができるという実感が、子どもたちの中に蓄積されていったと感じている。



図16：細いワイヤーをくくりつけることで三角形を固定

第2時の終末には、友達の表現に着目し、「今日のすいせん作品」を見つける活動を設定した。友達の完成させた表現のよさを見つけ、図工カードに記録する(図18)。この時間の設定により、活動途中では見ることができなかった友達の表現を知ることができると考えたからである。また、この記録は、国語科の「すいせんしよう」の単元での情報収集のプロセスで扱う予定にしている。



図17：友達の表現を試す姿

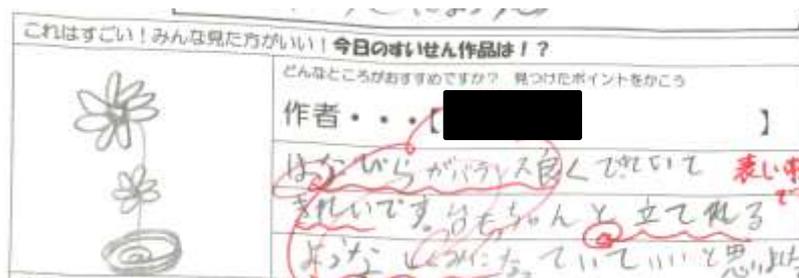


図18：図工カード

### (3) ワイヤーの森をつくろう！～図工室にワイヤーの植物を生やして変身させよう～

前時の図工カードにすいせん作品として紹介されていた表現の中で、何名にも選ばれている作品があり、子どものコメント共に紹介した。子どもたちが見つけたよさの中で、新たな表現技法として分類できるものは抽出し、新しい技として名前をつけて伝えることにした。そうすることで、全く違ったイメージのものをつくり出していく際にも活用できる表現の技法として捉えることができると考えたからである。新しい技法としては、「うずまき(図19)」



図19：うずまき



図20：からめる

「からめる(図20)」「まきつける(図21)」を紹介した。

前時から紹介してきた表現は、アイテムカードとし、いつでも見て活用できるように掲示した(図22)。



図21：まきつける



活動が進んでいくにつれ、植物の表現にも広がりを見せ始め、図25にも見られるような作品や葉のかたちを工夫した作品（図26）、花だけではなく実を付けたりしている作品（図27）も増えていった。



図26：葉の表現を工夫した作品



図27：実のある植物の作品

またある子どもは、植物の造形の場として窓際にあった雑巾がけを選んでいた（図28）。この子どもは、窓から降り注ぐ太陽の光に作品が照らされたことによって、きらきらと輝く様子や、その下にできる作品のかげを楽しんでいるのである。このように、アルミ線の素材のよさを味わうと共に場の特徴を生かした造形活動が行われている姿も見られた。



図28：素材や場の特徴を楽しむ姿

次に増えてきたのが、図29のように、吊り下げられた作品である。そのような作品を目の当たりにし図工室の天井は金網となっていることに気付いた子どもたちから、「上（天井）から吊り下げてつくっていきいたい！」という発言が出始めた。本時で、天井から吊り下げる場を提示する予定であったが、早くもこのような発言がでてきたのは、“ワイヤーの森”というテーマがもたらした効果であると感じている。“森”という言葉が、ワイヤーの植物が四方から生えている空間のイメージをもたらしたと考えている。図28までのように、くくりつけるだけでなく、吊り下げることによって、子どもたちの持つ“森”のイメージへ近づけることができると感じた様子であった。また、子どもたちが図工室を変化させていくことに楽しみを見出していることを感じた瞬間でもあった。

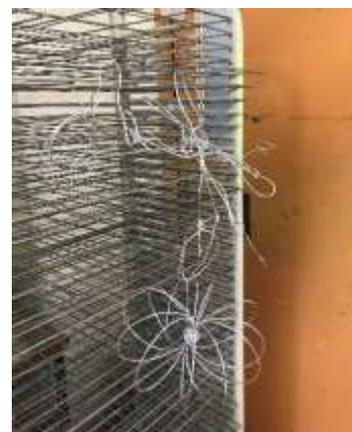


図29：つるす作品

以上が本時までの活動の流れである。本時では、ワイヤーを天井からつるしたり、子どもの手が届く高さに張り巡らせたりして、新たに造形可能な場を設定することで、ワイヤーの森の造形活動の2時間目に入って行く。

## 8. 本時の主張点

*前時までの造形の場へ更にアルミ線を張り巡らせ新たに造形可能な場を設定することにより、植物の造形表現に関してイメージの広がりを与えると共に多様な造形技法の活用を促し、立体的な表現活動における探究的な学びが実現するだろう。*

## 9. 本時について

これまでに、子ども達はアルミ線に関する素材体験を通して、多様な造形技能を獲得してきている。そのような子どもたちの探究的な学びを支え、促すために、「未来からとんできた種の植物をつくる」とことと「教室をワイヤーの森に変化させる」という学習課題（テーマ）を設定する。これらにより、子どもたちの豊かな発想力に刺激を与えることや、植物の“形”の表現に広がりをもたらすと考えている。

前時から教室で植物の造形を始め、本時は2時間目となる。前時までは、机の脚や柱、部屋の隅などへ植物を生やしていく活動が展開されている。本時では、天井から子どもたちの手の届くところまで針金を張り、これまでは造形できなかった空間にも働きかけが可能となる場づくりをする。前時にあった「吊り下げる場がほしい」という子どもたちの思いとも合致していることから、新しい造形の場に植物を創造していくことに対する意欲は高まりを見せると予想している。アルミ線が張られることで、さらにそこにアルミ線を巻き付けて蔓のように生え伸びていく植物や自分より背の高い所から垂れ下がってくる植物などの造形ができるようになり、更に多様な植物の表現が生み出されていくと考える。また、新たな造形の場は子どもたちの視界に入りやすい位置にあることから、お互いの活動や表現が意図せずとも見える。友達の表現や活動を目の当たりにした子どもたちの中には、感じたよさを自分の表現活動に生かそうとする姿も見られるだろう。

新たな場の設定が、イメージを膨らませると共に「表したいこと」を思いつき、新たな表現や活動を更に生み出していくことを予想する。そして、前時以上に変化を見せる教室を目の当たりにすることから、創造的に活動することの意味や価値を深め、また新たな表現を生み出すことに向かい続ける姿が見られることを願っている。

## 10. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びを「素材や空間、場からイメージを広げ、生やしたい植物を思いつき、表現の技法を活用することで“表したいこと”の実現に向かおうとすること」とする。普段見慣れた教室が、それぞれの活動の中で造形の場として変化していく。その変化に関わっていることを実感することや変化を知性と感性の両面から体験していくことが、自身の表現活動の意味や価値の実感を促し、さらなる造形活動への欲求を生み出すと考える。

また、協働的な表現の場は、「上手く表現できない」「どこかテーマにそぐわない」などと感じる子どもにとっては、前時までの造形技能を思い起こさせ、また、テーマ解釈の多様さを自然なかたちで与えることになるだろう。そして、造形活動の中で子どもたちは「表したいこと」をもち始

めると共に、その実現に向かうと考える。その過程には、前時までに体験的に学んできた表現技法の活用が見られることを予想している。

### 1 1. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

前時までに、アルミ線の特徴や表現技法は、知性と感性の両面から獲得していると考えられる。本時では、その表現技法を活用した植物の立体造形が見られるだろう。さらに、前時までの場の設定と異なることから、前時で見られなかった表現技法の活用が見られ、新たな表現が生み出されていくことを予想している。また、これまでに体験的に見付けてきた造形的な視点を動かせることで、変化し続ける場のよさを多様に感じ、作り出している当事者としての実感を深め、創造活動がより豊かになることを期待している。

### 1 2. 本時の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことに向けて、アルミ線や場所、空間の特徴を生かしながら、立体造形を行うことができる</li> </ul> 【創造的な技能】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ線のよさや場所、空間の変化を感じ取り、その特徴を活かした造形表現をすることができる</li> </ul> 【発想・構想の能力】 【鑑賞】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの表したいことを形成すると共に、その実現に向かおうとする</li> </ul> 【造形的な関心・意欲・態度】

### 13. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 前時までの活動をふりかえる。</p> <p>○この机の脚の所にワイヤーを巻き付けて、生やしたよ。葉を表現するのに、この技法を使ったよ。</p> <p>○この柱から生えているようにしたよ。固定する時は、この技法を使うといいよ。</p> <p>2. 本時の学習を知る。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワイヤーの森を広げよう</span></p> <p>○ここから生やしてみたいな。</p> <p>○ここにまきつけて、蔦のような植物にしよう。</p> <p>○前の、あの技法をつかうといいかも・・・。</p> <p>3. ワイヤーの植物を教室に生やしていく。</p> <p>○前に生やした植物に実をつけよう。まきつける技を使ってみよう。</p> <p>○新しい所に植物を生やそう！上から垂れ下げるには、つなげていく技を使うとよさそうかな。</p> <p>○思うようにいかない…。技を組み合わせてみよう。</p> <p>4. それぞれの活動や表現を伝えあう。</p> <p>○この表現が難しかったから、▲▲さんに教えてもらったよ。</p> <p>○この場所から見てほしい！ここがお気に入り。</p> <p>○この植物、不思議でいいな。</p> <p>○横から見ていたけど、下から見た方がいいかも。</p> <p>5. 次時の活動を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前時に植物を生やした場所を紹介し合うことで、本時での活動したい場所への思いをもてるようにする。</li> <li>• 表現技法を紹介し合うことで、それぞれの「表したいこと」の実現に向けて、見通しをもてるようにする。</li> <li>• 前時で「天井から吊り下げたい」と言っていた子どもの発言をとりあげ、手の届く位置に張っているワイヤーや天井などへ「吊り下げる」造形のできる場が広がっていることを伝え、本時の造形活動へ期待感を持たせられるようにする。</li> <li>• 試してみたい表現技法や活動をすでに思いついている子どもが考えていることを発表する場をもち、活動の見通しを持っていない子どもがイメージを膨らませ、造形活動へ意欲を高められるようにする。</li> <li>• 活動が止まっている子や悩んでいる子には、その子の思いや発想を大切にしながら、周りの友達の表現にヒントをもらうことや、表現したいことを一緒に探す。</li> <li>• つくっている子どもが気づいていないであろう視点からの表現のよさを伝えることで、多様な鑑賞活動を促すことや自身の表現に対する新たな価値を見出せるようにし、更なる表現の追究に向かうようにする。</li> <li>• それぞれの表現のよさを、造形物と言語で伝え合うことで、活動の価値や意味の明確化を促す。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知・技</span> 表したいことに向けて、アルミ線や場・空間の特徴を生かしながら、立体造形を行っている。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</span> アルミ線のよさや場、空間の変化を感じ取り、その特徴を生かした造形表現を思いついている。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国</span> 「表したいこと」を形成すると共に、その実現に向けて造形活動に取り組んでいる。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;"> <p>*単元を通して評価</p> </div>

\*番号は名札の番号と対応しています。その番号と対応させてご覧ください。

<b>1</b>		<b>15</b>	
<b>2</b>		<b>16</b>	
<b>3</b>		<b>17</b>	
<b>4</b>		<b>18</b>	
<b>5</b>		<b>19</b>	
<b>6</b>		<b>20</b>	
<b>7</b>		<b>21</b>	
<b>8</b>		<b>22</b>	
<b>9</b>		<b>23</b>	
<b>10</b>		<b>24</b>	
<b>11</b>		<b>25</b>	
<b>12</b>		<b>26</b>	
<b>13</b>		<b>27</b>	
<b>14</b>		<b>28</b>	